

岐南町 全地区

令和6年度

【地域の概要】

- 町域の95%以上が市街化区域で、各々の農地が宅地や工業用地の中に点在し、効率的な農作業が行われにくくなっている
- 農地面積は約174haあるが、宅地開発が進み、農地面積が減少するとともに、農業者の高齢化と後継者不足が同時に進行しているため、耕作する農家戸数が減少している
- 休耕状態や管理不全の農地が多く、有効な利用方法の検討及び解決に向けた取り組みの推進を行う必要がある

①取組開始前の状況や課題

岐南町農業振興協議会の開催

○令和2年度に策定した岐南町農業振興基本計画に基づき、都市農業を振興し、遊休農地の解消・発生防止に繋げるため、令和3年度から岐南町農業振興協議会を継続的に開催

○令和7年度に耕作され有効利用される農地を108ha確保を目指す

○農地の有効利用の方法として、農業振興に繋がる取り組みを実践する農業者の事例を参考に、横展開や拡大を進める

○令和5年度まで、①市民農園、②担い手と連携した新規作目生産（マコモタケ・ジャガイモ）、について協議し、農地所有者へのアンケートなど進めてきた

○上記2つについて、更なる農業者へのPR、実施する場合のサポートなどを検討していく

②取組内容

第1回農業振興協議会（令和6年6月）

- 協議会員の農業者、法人、農業委員や、事務局の町など11名が出席。
- 令和6年3月に水田営農計画書と併せて、農地利用意向アンケートを386件を対象に送付。約100件の回答があった。
 - 耕作していない農地において、
マコモタケ・ジャガイモ生産の意向

上記の3名に対し、協議会員のJAや農業法人から個別にアプローチ。しかしながら、当該農地の立地条件等により、耕作まで至らず。

町で開催されるイベントで来場者にPR（令和6年10月）

○町で毎年実施されるイベント「ぎなんフェスタ」にて、協議会として生産普及を進めるマコモタケ、ジャガイモ（インカのめざめ、きたかむい）を来場者に試食提供し、認定度アップを図った

徳田ねぎ収穫体験会（令和7年3月）

○岐南町の特産品である「徳田ねぎ」の収穫体験会を開催。町内の10組約35名が参加し、徳田ねぎの認知度アップと同時に、農業の楽しさや農家数の減少が続く岐南町の現状のPRを図った。

③今後の展開と方向性

アンケート形式での耕作者発掘の見直し

○これまではアンケート形式での推奨作物の耕作者発掘を行ってきたが、今後は新しい形の取り組みを検討していく。